

◇実践活動記録

ふるさとを愛する心を育てる ～舟橋村のためのプラス1をつくろう！～

I はじめに

1村1校ということもあり、本校の子供たちには、「大好きな自分たちの村をもっとよい村にしたい」という思いと活動が受け継がれている。子供たちは、村に主体的に働きかけ、身近な問題を見い出しながら、今自分ができることを一生懸命がんばっている。今年度も子供たちが村の現状を見つめ、見付けた課題を解決して、「日本一小さな村かもしれないが、よりよいふるさとにしよう」と現在も活動中の姿を報告する。

II 活動の実際

1 3年生

「舟橋村のすてきを見つけよう！」として、「どろんこ農園見学（有機野菜農場）」「ふれあい農園見学（水耕栽培）」「スマイルリーフスピカ見学（野菜工場）」を尋ね、施設や作業過程を紹介していただきながら、生産に取り組む思いを語っていただいた。子供たちは、この活動で、地域の人の仕事や村に対する思いを知り、「農薬を使わないって、虫を手で一つ一つ取らなければならないんだ。そんな苦労があったなんて知らなかったよ。どろんこ農園の人ってすごいな」「舟橋村は、田んぼが多いのに、こんなにたくさんの野菜が作られているなんてびっくりした」という思いをもった。自分たちの舟橋村に対する発見が生まれたり、働く人の仕事に取り組む姿勢について考えたりすることができた。



どろんこ農園見学（資①）



ふれあい農園見学（資②）



野菜工場見学（資③）

2 4年生

舟橋村がさらに安心・安全な村になるようにと考え、1学期は交通安全の観点から実態を調査したり情報を集めたりして、情報をまとめ、安全マップを作り、校内に掲示して安全を呼び掛けた。2学期は、火災予防について活動し、全家庭にアンケートをとってまとめ、そこから生まれた問題点について分かりやすく下級生に伝えようと、絵本を作ったり、4コマ漫画を作ったりした。作ったポスターは、教頭に許可を得て校内に掲示した。この村のためのプラス1になることを考えて自分たちができることを

行動したことが、さらによりよい村を自分たちの手で作ろうとする思いをもつことにつながった。

		
安全調査 (資④)	川の安全調査 (資⑤)	安全マップ作り (資⑥)
		
安全マップ作り (資⑦)	安全マップ作り (資⑧)	問題点をまとめる (資⑨)
		
絵本作り (資⑩)	4コマ漫画作り (資⑪)	ポスター作り (資⑫)

3 5年生

本校児童が2016年から継続している「竹鼻用水」とその本流の「細川」の環境保護活動を行った。前年度から取り組んでいる「サクラマスの10か月間飼育」「蛍の採卵からの飼育」などを通して、舟橋村の自然のよさを多くの人に伝えたいという思いが強くなり、広報活動にも取り組んだ。

(1) 「竹鼻用水のホタルを増やし隊」の活動

①活動のきっかけ

年度当初、平成26年に竹鼻用水の富山県絶滅危惧種トミヨを見付けてから、竹鼻用水の環境保全にがんばった結果、翌年には

月日	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
5月31日					2
6月1日		0			9
6月2日		0			8
6月3日	0	1			
6月4日	0	2			18
6月5日	3	1			20
6月6日	3	2			34
6月7日	0	2			54
6月8日	8				35
6月9日	8				56
6月10日	3	2			54
6月11日	10				24
6月12日	8				36
6月13日	12		1		28
6月14日	8	3	1		
6月15日	5		1		
6月16日					
6月17日		2			
6月18日	5	1			13
6月19日	6				
6月20日	2				13
6月21日	0				
6月22日	3	1			
6月23日	2			3	
6月24日		1		3	
6月25日				3	
6月26日	1				8
6月27日	4				
6月28日					
6月29日					
6月30日					

ホタル調査結果 (表①)

ホタルが復活して地域の方がびっくりしたことを伝え、2017年から～2020年までの竹鼻用水のホタルの一晚の出現数（教師調べ）の表（表① 2020年までの部分）を提示した。それを見た子供たちは、「いったんは復活したのに、どうしてこの2年間は少なくなったの？」と疑問をもった。そこで、先輩がホタルが減ったわけを調査したときの地域の人から「ホタルが復活して、とても喜んでいたら、ホタルが急にいなくなってさびしくなってしまった。私が思うに、用水に土砂がたまって餌であるカワニナがおらんようになったのが原因かなと思うんです」という言葉を伝えた。そして、先輩は、一昨年、去年と竹鼻用水をきれいにする取組を行ってきたが、コロナ禍の影響で十分にできなくて心残り卒業したことを伝えた。子供たちは、「自分たちの手でホタルを増やしたい」という思いを強くもって、活動に取り組むことになった。

②4、5月の活動 「カワニナの数を調べよう」

用水のごみを取ったり、泥を流したりする活動と共に、ホタルの数を増やすためにはカワニナが十分棲息する必要があると考えて、カワニナの数も調べて記録することを繰り返した。

③6月ホタル大出現 「先生、ホタルの卵が見付かりません」

例年より早くホタルが早く出ていると地域の方から連絡を受けて、教師が夜間に調査を行ったところ、2017年以降最大の出現数を記録していった（年表①の2021年の部分）。子供たちは、保護者に連れられて、ホタルを見に来た。また、マスコミにも取り上げられ、村内外から多くの見物客が訪れた。「子供たちが川をきれいにしたからホタルが戻ったと聞いたよ。すごいね」と言われた子供たちは、「来年はもっと増やしたい。だから今からもっとがんばりたい」と思った。竹鼻用水をきれいにする取組を行っているとき、子供たちから「先生、ホタルがたくさんいて卵を産んでいるはずなのに、ホタルの卵が見付かりません」という声が出た。自然界で卵を見付けることが困難だと考えた教師は、「だったらホタルを飼って見ないかい？」と提案し、10匹の成虫を飼うことになった。それまでも図鑑やインターネットで調べてはいたが、実物を前にして、切実感をもって再び調べ、飼育した。ところが、なかなか図鑑で見るとような卵が産まれなかったため、粘り強く詳しく観察させると、1mmほどの丸いものに気付き始めた。虫眼鏡を使って観察すると卵と確認できた。子供たちは、早速、数え始めた。合計すると1200個確認できた。

④7月「先生、ホタルの卵が孵化しません」

卵を乾かさないように注意して育てていたが、図鑑などで調べた期間が過ぎても幼虫の姿が見られなかった。「先生、ホタルの卵が孵化しません」「もう孵化してもいいはずなのに、どうしたのかな、失敗したのかな」と声が出たが、飼育ケースの底の糸くずのような物に注目させると、「先生、このごみみたいな黒い物が動いています。幼虫じゃないのですか」と声があがり、虫眼鏡を使って観察していた子供からも「先生、図鑑の幼虫とっしょです」「先生、卵から幼虫が出てきました」と教室中が歓喜に包まれた。「先生、餌が必要です」「カワニナをとってきます」などと餌のことが話題になった。カワニナがいくつ必要なのか考える中で、子供たちは、「10匹の成虫から1200個の卵がとれた、竹鼻用水には、いったい何匹のカワニナが必要なのかな？」と考え始め、竹鼻用水のホタルのためにカワニナを増やす努力が必要だと新たな課題を見付けていった。カワニナが野菜を食べて育つこと

を知った子供たちは、無農薬野菜の方がよいと考えて、3年生の時に青虫の飼育で野菜を分けていただいた地域の無農薬野菜栽培の農家から野菜の葉をいただくことになった。竹鼻用水に野菜の葉を入れる際には、地域の方に事情を話し、許可と励ましをいただいて行った。

⑤ 11月「先生、用水にホタルの幼虫がいました」

竹鼻用水の環境を整える活動をしていた子供たちが、カワニナの数数を数えていると、「先生、ホタルの幼虫がいました」と自然界での幼虫の発見に歓喜した。計50匹の幼虫を確認することができ、このことを地域の方に報告するとうれしそうに「来年も楽しみだね」とおっしゃった。



地域の方に許可をいただく (資⑬)

⑥ 今後の活動

学校で200匹の幼虫を育てることになったことで、学校でも用水でもカワニナを増やすことの必要性を切実に感じており、対策を講じる予定である。

(2) 「細川に鮭・サクラマスをふやし隊」の活動

昨年12月から10か月に及ぶサクラマスの飼育を経て、放流した。放流時には、元気に飼ってきてほしいという願いを込めて応援看板を作った。



細川にサクラマスを放流する (資⑭)

10月に入って遡上観察する頃になり、今年はどうすると投げかけると、「今年もやりたい」「でも、わたしたちだけやったのでは、繋がらない。4年生を誘おうよ」という意見が出た。そこで、「舟橋村の自然のためのプラス1」の活動を4年生に紹介して、やりたいと言ってくれたらいいしょにやろうということになり、プレゼン制作を開始した。また、細川の鮭の遡上のことを村の人に紹介したいグループも現れ、紹介パンフレットを作って村の図書館、会館、役場に置かせてもらった。また、パンフレットを置くだけでなく、鮭の遡上を見に来た見物客に、鮭のことを紹介する「細川の鮭知らせ隊」を作り、遡上調査を兼ねてタブレットを使って訪れた人に紹介した。

舟橋小学校では、2016年からこのサケの遡上調査をしています。下の表はその結果です。

年次	調査日	調査時間	調査地点	調査結果
2016年	10月	10時	100	100%
2017年	10月	10時	100	100%
2018年	10月	10時	100	100%
2019年	10月	10時	100	100%
2020年	10月	10時	100	100%

2016年のサケの数がとても少なかったのですが、舟橋小学校では、もっと増やしたいと、それからサケの放流を始めて、増え続けています。

左の表は、舟橋小学校のサクラマスの放流率の結果です。

年次	放流数	遡上数	放流率
2016年	96	100	104%
2017年	196	200	102%
2018年	195	200	103%
2019年	197	200	101%
2020年	198	200	101%

なんと放流率は95%超えです！

この放流のおかげで、サクラマスの数は、2017年の1日の最多遡上数は、2016年の7倍以上になりました。

パンフレット (資⑮)

12月6日から4年生と共に飼育開始。鮭は、昨年までの200粒から300粒に増やした。サクラマスは、昨年と同じ50粒にして、毎朝、水替え、餌やりの仕事を行っている。

4 6年生

竹鼻用水に隣接する「竹鼻リバーサイドパーク」にあまり人が来ないことから、もっとよい環境にして舟橋村の人たちに来てもらえる公園にしたいという願いをもって活動に取り組んだ。プランを立て、公園の所有者である役場と交渉を行い、許可を得て、次の活動に取り組んだ。草取り、花壇づくり、水辺の清掃、ラベンダーの刺し芽づくり、芍薬の苗植え。



鮭のこと知らせ隊 (資⑯)

また、看板づくりも行った。

草取り (資17)	花壇づくり (資18)	水辺の清掃 (資19)
芍薬の苗植え (資20)	看板づくり (資21)	看板づくり (資22)

また、活動は継続中だが、今までの活動を振り返る話合いでは、これまでの成果と課題を次のように発表した。

これまでの成果

・活動してきてよかったこと、達成したこと、公園に対する思いや変化
私は、活動してきて看板を立てる場所の穴掘りと草むしりを達成することができました。公園に対する思いは、初めて公園に行ったときは、こんなに草が生えているところを掃除して魅力あふれる公園になるのかな？と思っていたけど、活動を続けているうちに、もっと綺麗に掃除していこうという思いが変化していきました。

これまでの成果

・活動してきてよかったこと、達成したこと、公園に対する思いや変化
活動してきて良かった事は、草がたくさんあって花壇のかたちもなかった場所にレンガを動かすことでやっと花を植えることが出来るようになったことです。また、最初の頃は竹鼻リバーサイド公園のことを気にかけていみせんでしたが、近くを通るとまた草が生えてきていないかやレンガが崩れていないかなどを確認したりして、また頑張ろうと思うことができました。

これからの課題

・自分が目指す公園に対して、これからの活動に対する課題点、問題点、自分の思い
問題点で、看板周りの草むしりしても2・3カ月経つとまた草が生えてくことと、タイルの面積が広すぎて清掃してもすみずみまでは綺麗にならないというところが課題点だと思います。そこで私は、チームで協力してタイルの清掃を行いたいと思いました。

これからの課題

・自分が目指す公園に対して、これからの活動に対する課題点、問題点、自分の思い
公園に行く機会があまりないため1度行って草をむしってもまた行くときにはもっと草が増えてなかなか草むしりが終わらないことです。また、決めてみましたが水やりをする人が用事でいけなかったりしてしまうと枯らしてしまいそうで心配です。でも、自分たちが目指す公園像に近づくように頑張りたいです。

Ⅲ まとめ

「村のために今自分たちができることをしよう」という考えは、今年度も、そして来年度も受け継がれていくであろう。今年度取り組んできたことを継続させ、さらに発展させていこうという思いの子供たちに育っている。